

## 金沢星稜大学 学修成果の評価に関する方針（アセスメント・ポリシー）

金沢星稜大学は、教育の質保証を図るため学修成果の客観的かつ適切な評価について、次のように「学修成果の評価に関する方針(アセスメント・ポリシー)」を定める。なお、評価結果は不断の自己点検を行いながら全学的に分析・検証・活用し、社会に開かれた教育の質保証を推進していく。

### 1. 目的

- ・「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」（以下「DP」という。）の達成状況を把握し、DPを達成するための「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」（以下「CP」という。）および「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」（以下（AD）という。）の適切性を測定・評価する。
- ・学生が自らの学修成果を把握することで、自己の成長を実感し、修得した能力や技能をキャリア形成に活かしていく。
- ・学修成果についての客観的かつ適切な評価を行うことで本学教育の質保証を図り、その可視化を通じて社会に対する説明責任を果たす。

### 2. 評価レベル

卒業認定・学位授与の方針に定める学生が修得すべき能力に対して、「(1) 大学（機関）レベル」、「(2) 学部・学科（教育課程）レベル」、「(3) 授業科目レベル」の3つのレベルで学修成果を把握し、達成状況を評価する。

#### (1) 機関（大学全体）レベル

- ・「入学者受入れの方針」(AD) に照らして入学者選抜試験の結果を検証すると共に、入学時から卒業時までの在学期間全体をとおして培った学修成果の達成状況を「卒業認定・学位授与の方針」(DP) に照らし総合的に測定・評価する。

#### (2) 教育課程（学部・学科等）レベル

- ・学部・学科レベルにおいては、「入学者受入れの方針」(AP)、「教育課程編成・実施の方針」(CP)、「卒業認定・学位授与の方針」(DP) の各学部・学科のポリシーに照らして学修成果の達成状況の測定・評価を行い、教育の継続的な改善を行う。

#### (3) 授業科目レベル

- ・授業科目レベルにおいては、シラバスに定める「授業意図」に基づいて示された「各科目の具体目標」に掲げる資質・能力が身についているかを測定・評価する。講義科目においては、試験およびレポート等により知識・技能の習得に関する到達度を評価する。演習および実習科目においては、実際の活動場面、事前学修や準備の取り組み状況、事後の振り返りや成果発表までの一連の学修活動について、関心・意欲・態度の観点と課題発見力・課題解決力の観点から総合的に評価する。
- ・シラバスに示された到達目標（「授業意図」および「具体目標」）に対する学生の修得状況および成績分布状況等から学修成果の達成状況を検証する。

### 3. 評価方法と指標

○評価レベルごとの測定データ、評価方法および指標は、別表「学修成果・教育成果の評価レベル及び測定データ一覧表」の定めるとおりとする。

#### 4. アセスメント実施体制

##### (1) 機関（大学全体）レベル

###### a. 協議会

学生の入学、卒業及び課程の修了、学位の授与、教育研究に関する重要な事項について審議し、学長に意見を述べる。

###### b. 学部教授会および教養教育部教授会

入学者の受入れ、卒業の認定、教育課程の編成及び実施に関する方針、および教育研究に関する重要な事項について審議し、学長に意見を述べる。

###### c. 常任部会

大学の運営及び教育研究を円滑に行うために必要な連絡、調整及び協議を行う。

###### d. 教学マネジメント委員会

「学修成果の評価に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に則した測定・評価の結果を踏まえ、教育活動の見直しを行い、社会に開かれた質保証を推進していくために必要な連絡、調整及び協議を行う。

###### e. 入学者選抜会議

「入学者受入れの方針」にもとづく入学者選抜に関する事項についての検証と改善を行う。

###### f. 評価部会

自己点検・評価（認証評価を含む）に関する事項および学生の授業評価に関する事項についての検証と改善を行う。

###### g. 各部会および各センター

「金沢星稜大学の管理教員及び部会に関する規程」にもとづく各部会（教務部、学生部、入学部、評価部）およびセンター（図書館、総合研究所、産学地域連携センター、国際交流センター、キャリアセンター、学生支援センター、教職支援センター、総合情報センター）において、各附属施設の規程に定められた事業を実施し、それらの検証と改善を行う。

##### (2) 教育課程（学部・学科等）レベル

###### a. 学部教授会

入学者の受入れ、卒業の認定、教育課程の編成及び実施に関する方針、および教育研究に関する重要な事項について審議すると共に、それらの検証と改善を行う。

###### b. 教養教育部教授会

全学共通教養教育および教育研究に関する重要な事項について審議すると共に、それらの検証と改善を行う。

##### (3) 授業科目レベル

###### a. 評価部会

学生の授業評価アンケートの実施および自己点検・評価（認証評価を含む）に関する事項についての審議により、学修成果の客観的かつ適切な評価の方策について検証と改善を行う。

###### b. 教務部会

教育課程編成の調整をはじめ開講科目の内容の調整等、教務に関する事項について審議及び実施すると共に、それらの検証と改善を行う。

###### c. 各授業担当者

シラバスの内容（授業意図、具体目標、授業内容及び方法、授業計画、成績評価の方法と基準、等）に則した授業を実施し、修得された資質・能力の状況および成績分布の状況等から、学修成果の達成状況を測定・評価する。

別表 「学修成果・教育成果の評価レベル及び測定データ一覧表」

レベル/NO	レベル	AP/CP/DP	実施者	調査項目	対象	内容(指標)	調査手法	結果の活用方策	実施時期	周期
1	機関レベル	AP	入学部	入学者選抜試験結果	1年次	募集人員数、志願延数、志願実数、受験者数、入学者数、志願倍率(延数)、志願倍率(実数)、GMS区分、入学辞退、学生ごと選抜区分、得点率区分別入学者数、受験者出身高校、など。	実績データ(入学課集計)	入学者募集戦略の立案、入試選抜結果とGPA・単位取得状況との比較による学習サポート(初年次、就学前)プログラムの検討。	入学者選抜～入学式	毎年
1	機関レベル	AP	入学部	入学前教育取組状況(①星稜ドリル)	入学前	ログイン人数、課題達成率・達成時期、学習時間、学習回数、平均点、入試形態別学習時間・平均点。	実績データ(業者集計)	入学前段階での個別学生の就学意欲の把握(やる気がない、短時間で写しているなどの確認)。	12月末日～課題開始(1月末/2月末)	毎年
1	機関レベル	AP	入学部	入学前教育取組状況(②学科別課題)	入学前	入学前課題の提出内容。	実績データ(各学科保有)	入学前段階での個別学生の就学意欲の把握、各学科での対象学生に対するフィードバック。	12月末日～課題開始(1月末/2月末)	毎年
1	機関レベル	AP	入学部	新入生アンケート	1年次	本学の志望順位、出願決定時期、他校受験有無、市進路決定の助言者、受験他大学、本学志望理由、オープンキャンパス参加状況、広報媒体何をみたか、試験科目の難易度、大学への期待度、星稜ドリル(入学前課題)に提出状況。	webアンケート	入学者募集戦略の立案、卒業時アンケートとの対比による学生生活の満足度の把握、星稜ドリル(入学前課題)の改善。	4月	毎年
1	機関レベル	AP	入学部	オープンキャンパス来場者アンケート	高校生/保護者	参加者数、学年、出身高校、過去参加経験、実施をどこで知ったか、参加理由、興味のある学科、印象に残った企画、本学の志望、他大学OCへの参加有無、スタッフ対応、満足度、感想・意見(自由記述)等の項目を設定する。	webアンケート	オープンキャンパスの内容改善、入学者募集戦略の立案	オープンキャンパス実施時	毎年
1	機関レベル	AP	教務部	入学前テスト	入学時	英語の基礎的運用能力としてCASECテスト:Computerized Assessment System for English Communicationを実施し、その得点を測る。	実績データ	リーディングおよびリスニングの運用についての基礎的な能力を測定し、共通教育と専門教育での受講に対する準備状況を検証する。	入学者選抜～入学式	毎年
1	機関レベル	CP	評価部	学生調査(大学IRコンソーシアム)	1～4年次	・学習行動と受講態度、正課内外の活動時間 ・知識・能力の獲得状況 ・英語運用能力のレベル ・大学生生活、大学教育に対する満足感	webアンケート	・全体(他大学)の集計結果との比較を通じて本学(学部・学科)の特徴(強み・弱み)を把握し諸施策の改善への資料とする。 ・教育の標準性を検証する。	10月～12月	毎年
1	機関レベル	CP	国際交流センター	海外留学プログラム参加者数・留学率	1～4年次	海外留学プログラム参加者数・留学率を、長期留学/語学研修/海外研修の別に集計し分析する。	実績データ	留学の効果を定量的・定性的に明らかにし、留学支援制度の成果分析や留学プログラムの効果を推定する	3月	毎年
1	機関レベル	CP	教務部	卒業率	4年次	卒業見込学生の人数及び全体に占める比率	実績データ(教務課集計)	各学部学科との情報共有を通じ、各学部学科で課題を抽出し、必要に応じてポリシーに沿った授業やカリキュラムの改善を図る。	3月	毎年
1	機関レベル	CP	教務部	留年者数・留年率	4年次	単位不足により卒業不可となった学生の人数及び全体に占める比率	実績データ(教務課集計)	各学部学科との情報共有を通じ、各学部学科で課題を抽出し、必要に応じてポリシーに沿った授業やカリキュラムの改善を図る。	3月	毎年
1	機関レベル	CP	キャリアセンター	資格および免許取得状況(除:教員・保育士)	1～4年次	年度別(学年別)検定試験別受験者数、合格者数、合格率	実績データ	次年度の講座計画及び学習指導の参考とする	4月～3月	毎年
1	機関レベル	CP	キャリアセンター	インターンシップ等参加者数	1～4年次	参加企業・団体、参加日数、実施場所、応募媒体、選考の有無	webアンケート	学生動向の把握、次年度ガイダンスの参考とする	4月～3月	毎年

1	機関レベル	CP	キャリアセンター	外部語学検定試験	1～4年次	年度別（学部別）検定試験別受験者数、合格者数、合格率（スコア）	実績データ	語学試験の結果より、学力水準の把握、クラス分け資料等に活用	4月～3月	毎年
1	機関レベル	CP	キャリアセンター	大学全体の進路支援への満足度	4年次	大学全体の進路支援への満足度、その理由	webアンケート	アンケート結果を学内で共有する	5月～3月	毎年
1	機関レベル	DP	評価部	卒業前の学修成果の達成状況の調査（自己評価）	4年次	・DPの各項目に対する達成度と成長実感（自己評価）	webアンケート	・教育課程および授業内容・方法の改善	2月	毎年
1	機関レベル	DP	評価部	卒業時アンケート	卒業時	・大学生生活（授業、ゼミ、課外活動、進路・学生支援等の満足度） ・総合満足度	webアンケート	・4年間をととした学修プランの改善策の検討 ・学生支援の在り方についての改善策の検討	3月	毎年
1	機関レベル	DP	キャリアセンター	就職率	卒業時	名目就職率（内定者数÷就職希望者数）、実質就職率（内定者数÷卒業見込者数（全員））	実績データ	名目就職率100%を目標に支援する	5月～3月	毎年
1	機関レベル	DP	キャリアセンター	企業へのアンケート	業界研究会参加企業	卒業生に備わっているスキル、本学についての印象	webアンケート	アンケート結果を学内で共有し、またHPにも公開する	11月～2月	毎年
1	機関レベル	DP	キャリアセンター	主な就職先および進学先	4年次	進路決定先、職種、勤務地、就職活動を終えた時期、他の内定先、進路決定の決め手、進路決定先の満足度。	webアンケート	進路先・内定先の把握、次年度就職ガイダンスの参考とする	5月～3月	毎年
1	機関レベル	DP	キャリアセンター	卒業生へのフォローアップ調査	卒業後	卒業生の勤務状況、大学でのどのような学びが仕事に役立っているか、大学の進路支援に求めるサポートについて。	webアンケート	アンケート結果を学内で共有し、HPにも公開する	12月～1月	毎年
2	教育課程レベル	CP	評価部	MDASH関連科目群履修状況	1～4年次	・履修者数・履修率を各学部学科ごとに算出。 ・修得者数・修得率を各学部学科ごとに算出。	実績データ	全学的な履修者数、履修率向上に向けた施策の改善に活かす。	年度末	
2	教育課程レベル	CP	教務部	新入生研修アンケート（履修計画）	1年次	・学部学科の特色と目標を理解し、4年間を見通した履修計画を構想できたか。 ・1年次の時間割を作成できたか。 ・同じ学科（ゼミ）で学ぶ仲間とコミュニケーションをとれたか。	webアンケート	新入生の大学生活や学習環境への適応度を測り、学習意欲や自己成長を促す施策の改善に活かす。	4月	毎年
2	教育課程レベル	CP	教務部	単位修得状況	1～4年次	学年別にみた単位修得状況の分布	実績データ（教務課集計）	各学部学科との情報共有、保護者会におけるフィードバック等を通じ、各学部学科のポリシーに沿った授業やカリキュラムの改善を図る。	9月・3月	毎年
2	教育課程レベル	CP	教務部	GPA分布	1～4年次	学年別にみた累計GPAの分布	実績データ（教務課集計）	各学部学科との情報共有、保護者会におけるフィードバック等を通じ、各学部学科のポリシーに沿った授業やカリキュラムの改善を図る。	9月・3月	毎年
2	教育課程レベル	CP	教務部	副専攻プログラム履修状況	1～4年次	副専攻プログラムの申請者数、履修済科目数の分布	実績データ（教務課集計）	教学マネジメント委員会に諮り、プログラムの運用改善を図る。	3月	毎年

2	教育課程レベル	CP	教職支援センター	教職課程および保育士養成課程の履修者数	1～4年次	年度当初の希望者の推移	教職ガイダンス	本学学生の教職免許及び保育士資格取得希望者数の把握	年度当初	毎年
2	教育課程レベル	CP	教職支援センター	実習および学校インターンシップ等の参加者数	2～4年次	教育実習、保育実習、学校インターンシップ参加者の推移	学務システム等	各種実習における参加者数の把握	年度末	毎年
2	教育課程レベル	CP	教職支援センター	教職課程等アンケート	4年次	教職免許状等取得者の満足度の推移	Googleフォーム	教職課程等運営の改善に活かす	年度末	毎年
2	教育課程レベル	CP	学生部	退学者数・退学率	1～4年次	退学率（＝退学・除籍者数／在籍者数）を年度別・学年別および年度別・異動理由別に算出する。	「学籍異動伺」による。	学年別および異動理由別に退学率の経年変化の傾向を把握し、学内で共有する。また、本学と近いポジションにある他大学（札幌、広島、福岡といった地方中核都市にある有力私立大学）と退学率を比較し、評価を加える。休学が退学につながっているかを調べることを今後検討する。	各学期および年度末	毎年
2	教育課程レベル	CP	学生部	休学者数・休学率	1～4年次	休学率（＝留学を除く休学者数／在籍者数）を年度別・学年別および年度別・異動理由別に算出する。	「学籍異動伺」による。	学年別および異動理由別に休学率の経年変化の傾向を把握し、学内で共有する。	各学期および年度末	毎年
2	教育課程レベル	DP	教職支援センター	教員免許状および保育士証の取得者数	4年次	石川県教育委員会等に出願した免許状等における件数の推移	学務システム等	卒業時に免許状、保育士資格を取得した学生の把握	年度末	毎年
2	教育課程レベル	DP	教職支援センター	教員就職者数および教員就職率	4年次	本学を卒業し教員になった卒業生の推移	Googleフォーム	教職免許状取得者の進路先の把握	年度末	毎年
3	科目レベル	CP	評価部	成績分布状況（客観的評価）からDPの達成状況についての総合的な分析・評価	1～4年次	成績評価：S(100～90)、A(89～80)、B(79～70)、C(69～60)、D(59以下)、R（単位互換による単位認定）の分布	学務システム	・成績評価基準の平準化を促進する。 ・DPの達成状況を把握し、大学教育の質保証へむけた改善に活かす。	開講学期ごと	毎年
3	科目レベル	CP	評価部	授業評価アンケートによる学修目標の達成状況と満足度についての総合的な分析・評価	1～4年次	カリキュラム・マップに記された各学部学科のDP（ディプロマ・ポリシー）またはコンピテンシー（共通教育科目群）と対応にもとづき、各授業で修得すべき資質・能力の達成状況を測る。	学務システム	各授業ごとの集計により、学科で定めるDPまたはコンピテンシーとの対応にもとづく資質・能力の達成状況を客観的データとして把握し、授業改善と教育課程の改善に活かす。	開講学期ごと	毎年
3	科目レベル	CP	評価部	授業評価アンケートの回答率	1～4年次	アンケート回答者数／受講者数の比率	学務システム	教育の質を向上させるための基礎的な調査であり、具体的な改善点や教育内容へのフィードバックとして活用するために、回収率：80%程度を維持する。	開講学期ごと	毎年
3	科目レベル	CP	各授業担当者	当該科目の成績分布状況による到達目標の達成状況（客観的評価）	1～4年次	成績評価：S(100～90)、A(89～80)、B(79～70)、C(69～60)、D(59以下)、R（単位互換による単位認定）の分布	学務システム	各授業担当者は、到達目標に対する達成状況を把握し、授業内容と授業方法の改善に活かしていく。	開講学期ごと	毎年
3	科目レベル	CP	各授業担当者	各科目ごとの学修目標達成状況（科目担当者の指標による評価）	1～4年次	カリキュラム・マップに記された各学部学科のDP（ディプロマ・ポリシー）またはコンピテンシー（共通教育科目群）と対応にもとづき、各授業で修得すべき資質・能力の達成状況を測る。	学務システム	各授業担当者は、各授業で定めるDPまたはコンピテンシーとの対応にもとづく資質・能力の達成状況を客観的データとして把握し、授業改善に活かしていく。	開講学期ごと	毎年